

今夏は国内外旅行が好調で、祭り・花火大会等のイベントも復活。7月中旬以降は猛暑効果で、レジャー・大型商業施設・プール等が盛況

気象庁によると、今夏（7、8月）の千葉市の平均気温は、7月上旬までは平年並みで、前年を下回っていたが、中旬以降は最高気温が30を超える真夏日と最高気温が35を超える猛暑日が合計のべ42日にのぼったほか、最低気温が25以上の熱帯夜ものべ36日記録するなど暑い日が続いた。また、降水量も7月（94.0ミリ）、8月（108.0ミリ）とも平年を下回り、県内では利根川水系ダムの貯水量が著しく減少するなど水不足が発生、県では9月4日に湧水対策本部を設置し、県民に節水を呼びかけている。

銚子気象台では、今夏の千葉県を、「7月後半から気温が平年を上回る日が多く、少雨の状態が続いている」（8月24日現在）と総括している。

ちばぎん総合研究所では、8月上旬に続き再度県内消費関連施設等にヒアリング調査を実施したが、その結果は下記のとおり（前回分については、9月号参照）。

県内レジャー・行楽施設では、8月は暑さに加えて晴天が続いたことから、海水浴場・大型プール施設（入場者数は前年同期比3～4割増）TDR（来場者数はキャパシティー杯を記録する）などは多くの来場者が訪れた。このため、JR千葉支社管内の夏季期間（7月20日～8月19日）における特急列車の利用者数は前年比18%増、ANAの成田路線でも、お盆期間中（8月10～19日）の旅客数は、国内線が同18%増（利用率：75.2%）、国際線も同9%増（同：89.6%）と旅行需要が盛り上がった。今夏は、昨年、東日本大震災の影響で自粛したり開催時間を短縮していた祭りや花火大会等各種イベントの復活もあり、消費需要に好影響を与えた。千葉市の「千葉市花火大会」（約30万人）や茂原市の「茂原七夕まつり」（3日間合計82万人）などは大きな賑わいをみせた。

商業施設の動きを見ると、9月1日から実施の電気料金値上げが消費者への心理的負担となり、節電関連商品の売れ行きが好調なほか、県内百貨店では、夏全般の衣料品・雑貨は冴えなかったが、なかには、肌着やステテコ、半袖ワイシャツなどクールビズ商品の8月の売上が前年同月比1～2割増加した先もあった。また、ビアガーデンでは前年を5割以上上回る売上となった先もみられた。アウトレットパーク木更津では、夏休みに入り、房総への旅行帰りともみられる家族や対岸からの来場者が増えるなど好調に推移している。

農林水産省が発表した千葉県の米の作況指数は（8月15日現在）、日照時間にも恵まれ、2年ぶりに「やや良<作況指数：102>」となった（前年は「平年並み<同：100>」）。（森）

12年7～8月中の千葉市の平均気温の推移

時期	平均気温 (真夏日数、猛暑日数)				降水量 (対前年比)	
	10年	11年	12年	平年	12年	平年
7月中	27.7 (17、4)	26.8 (18、0)	25.7 (15、0)	25.0	94.0 (+66.0)	128.2
7月上旬 (7/1～7/10)	26.3 (5、0)	27.5 (8、0)	23.4 (0、0)	23.6	82.0 (+80.5)	52.1
7月中旬 (7/11～7/20)	27.7 (7、0)	28.5 (9、0)	26.9 (7、0)	25.0	8.5 (-2.0)	40.8
7月下旬 (7/21～7/31)	29.0 (5、4)	24.6 (1、0)	26.8 (8、0)	26.2	3.5 (-12.5)	35.3
8月中	29.0 (25、4)	27.2 (22、1)	28.2 (26、1)	26.7	108.0 (+35.0)	131.3
8月上旬 (8/1～8/10)	28.8 (9、0)	27.5 (8、0)	27.4 (8、0)	26.9	20.0 (+2.0)	37.7
8月中旬 (8/11～8/20)	29.0 (8、2)	28.9 (8、1)	28.2 (7、1)	26.8	27.5 (+3.0)	43.8
8月下旬 (8/21～8/31)	29.3 (8、2)	25.3 (6、0)	29.0 (11、0)	26.4	60.5 (+40.0)	49.8

(出所)気象庁

大型プール施設	7月下旬以降、暑さに加え天候にも恵まれたことから、8月中の来場者数は記録的な猛暑だった10年の水準には及ばないものの、11年比3～4割増加した（大規模プール）。
海水浴場	富津市内の5つの海水浴場では、8月中の来場者数は51,890人と震災前の10年比2割減だったが、11年比では3割以上増加した。放射能汚染の風評被害が依然残っているため、団体客は少ないが、若者グループや家族連れを中心に土日や盆休みが天候に恵まれたことから盛況だった。九十九里町内の海水浴場の来場者数も、7月中は11年比3割程度増加し、8月もこの動きが続いた。
TDR	毎年この時期はキャパシティー杯まで来場者数は増えるが、今年も天候に恵まれたことから、昨年同様、キャパシティー杯を記録した。
祭り・花火大会等のイベント	7月27～29日に開催された茂原七夕まつりでは、11年は震災の影響や節電による開催時間の短縮から来場者数は68万人（10年比2割）だったが、今年は例年通り開催され、82万人とほぼ震災前の水準まで回復。また、2年ぶりに開催された千葉市民花火大会（8月4日）も、今夏から開催場所を千葉ポートタワーから海浜幕張に変更したことが奏功し、来場者数は10年の約20万人から約30万人に大幅に増加した。
夏物商品	8月の肌着や半袖ワイシャツなどクールビズ商品の売上は前年同月比1～2割増加、冷却マット、ジェルパットなど寝具の売上も同1割増加した。扇風機の売上も、7月は節電需要が集中した前年を下回ったが、暑い日が続いた8月に売上を伸ばし、最終的には高水準だった前年並みとなった。
アウトレットパーク木更津	夏休みの来場者数は好調に推移。房総への旅行帰りともみられる家族の来場も多かった。対岸からバスツアーなどによる買い物客も増えている模様。最寄駅の木更津・袖ヶ浦駅の利用者数も、合計で162千人と前年同期比2割増加している（7月19日～8月19日）。
コンビニエンスストア	花火大会・夏祭りの復活、オリンピックの深夜テレビ観戦需要の増加から、缶ビールやつまみ類、スナック菓子、ソフトドリンク等の売上が前年比やや増加。また暑い日が続いたことから、ソフトクリームなど氷菓子の売上も、節電の影響で好調だった前年を数%上回った。ミニストップでは、7月に発売したダブルマンゴーパフェが、発売から1か月で200万食の販売を達成するなど大ヒットとなった。
ビアガーデン	気温の上昇に加え、晴天が続いたため、7月中旬以降から客入りが増加。8月は若い女性客をターゲットとした女子会プランも好評を博し、売上は前年比5割増加した。
農業	農林水産省が8月15日に発表した今年の千葉県の米作の作況指数は、2年ぶりに102の「やや良」となった。市川市産ナシの生育状況は、「晴天が続いたことはナシの生育にとってプラスだったが、少雨で害虫が大量に発生し、最終的な出来栄としては前年とあまり変わらなかった」（JAいちかわ）とのこと。